

上 田 勉

7月23日、五輪の開会式をテレビで見ました。難民・パレスティナ・香港・ミャンマー（選手が少ない）の選手団の行進を見て、私は涙しました。それはさておき

◆開会式当日の東京の新規感染者数—去年（7月24日）は260人・今年（7月23日）は1,359人（5倍超）—延期しない方が良かったのでは

◆宮城県—サッカー 観客有りを強行、3分の2の観客が自主的にキャンセル

宮城県医師会・郡仙台市長・吉村山形県知事は、コロナ・ウィルスの感染拡大を危惧して、村井宮城県知事に対して、無観客の開催を要望しました。しかし、村井県知事は観客有りを強行しました。県民の命と安全を無視して、IOCの囚人（仏ル・モンド紙）となることを選択しました。仙台市では、夜9時まで飲食店では酒を飲みません。宮城県の現在の新規感染者数は10~20人ぐらいを推移しています。しかし、8月初めには100人を超えないか、心配です。

21日から、宮城スタジアム（利府町）でサッカーの試合が始まりました。しかし、チケット購入者の3分の2が自主的にキャンセルして、実際の観客数は約2千人でした。実は私も、21日のチケットを持っていましたが、泣く泣くキャンセルしました。

◇福島県—野球とソフトボール無観客で開催、県の都市ボランティアがキャンセルに

一方、内堀福島県知事は、県民の命と安全を守るために、福島あづま球場（福島市）で開催される野球とソフトボールの試合の、無観客開催を決定しました。

私は、福島県の都市ボランティアに応募しました。開催当日は、JR東北本線の郡山駅周辺で案内をする予定でした。外国から福島県へ来る外国人に片言の英語・ドイツ語・中国語で案内するつもりでした。案内の中身も、観光地（会津若松や猪苗代湖）に行くのではなく、原発事故の被災地の浜通りへ行ってもらえるようにしたいと思っていました。しかし、外国からの観客は無し、会場も無観客になって、都市ボランティアもキャンセルになりました。

◆聖火リレーのコース、双葉町の提案（被災地の影の場所）をJOCが採用せず

「復興五輪」はいったいどうなったのでしょうか。五輪の2016年大会の東京招致で、日本は「環境五輪」で立候補して落選しました。2020年の東京招致では、「復興五輪」を掲げました。しかし、「復興五輪」について、当時の石原都知事は知らなかったとのことです。東京五輪は、被災地にはマイナスにもなりました。東京で大々的な競技場の大規模工事が始まって、建築資材や職人が不足して、被災地の建築資材費や人件費が高騰しました。

最近知ったのですが、聖火リレーのコースについて、双葉町は復興した場所ではなく、被災したままの駅前商店街のコースを福島県を通してIOCへ要望したが、採用されなかったとのことです。福島県内の全ての聖火リレーのコースは、光の当る（復興した）場所でした。陰の場所（現在の被災地）はどこも採用されませんでした。



【双葉町が IOC へ提案して採用されなかった聖火リレーのコース（双葉町）】



【福島県都市ボランティア無観客でキャンセルに この服装で案内するつもりだったのに】